

2026年2月14日地球物理学教室同窓会講演概要

【令和7年秋 瑞宝大綬章受章記念特別講演】

「活断層のリスクと恩恵
～京都盆地に生まれた変動帯の文化～」

尾池和夫 名誉教授（元京大総長）

〔概要〕

自然を知ることによって地球社会の調和ある共存を暮らしの基本とすることができます。地球全体のことを知って、その上に自分の住む地域を知ることが重要です。京都は西南日本内帯に属する地域で、活断層運動によって形成された京都盆地には、世界的に珍しい城壁のない都が置かれました。盆地の豊かな地下水から、茶の湯を初めとする「変動帯の文化」が生まれました。活断層のリスクとともにその恩恵を知ることが大切です。



日本列島には地震と火山の噴火とそれらによる津波があります。自然現象である地震のことを知ることによって、社会的現象である震災に備えることができます。西南日本内帯の活断層に起こる浅い大地震は都市の直下に起こります。近畿の活断層のことを知って、その地震に備えます。歴史資料の分析から得られた内陸地震の活動期の統計モデルから、私は西日本全体に影響を及ぼす南海トラフの巨大地震の発生時期を2038年頃と予測しています。いずれは確実に起こる巨大地震に備えて各地で防災対策が実行されています。

安全の反対は危険、安心の反対は不安です。それらの間の関係を理解して、自然現象を正しく恐れることが重要です。自然現象を理解することによって、正しく災害に備えることが可能となります。災害に備えるためには足腰を鍛えておくことも重要で、そのためには吟行して俳句を詠みます。

これらのことを皆さまと一緒に考えてみたいと思います。